

うたごよみ

曾於文藝

俳句

末吉千草俳句会

四・五人の網ひろげ千す秋の浜

福岡 武子

雲はれて月に深まる空の紺

田之上 千代子

山里の名月大きくのぼりけり

今村 久子

大隅俳句会

秋晴れや二人三脚 子に引かれ

田原 恵子

つと止みて鳴くまで待てばちろろ蟲

河南 ミホ

イチロウの記録達成天高し

野上田 憲緒

短歌

末吉短歌会

「出番です」と声上ぐるごといつ

せいに秋を彩る朱の曼珠沙華

大森 澄子

官中革命のごとき選挙戦踊る夏蟻

はせつせと隊を組みある

森岡 ちどり

政党の玉虫色のマニフェスト虹の

先には陥穽潜み

宝蔵 弘二

大隅短歌会

採りたてのトマトの色も鮮^{あざ}らしく

夕餉の卓の主役となりぬ

伊勢 タミ子

施設よりひと日戻りし母なれば負

けてばかりの私がいたり

鯨島 由美子

体力も智力もなくも若きらのエコ

の講義を懸命にきく

本田 澄江

「題字」

末吉文化協会会員

瀬戸口 淳 氏

財部短歌会

盆料理いつしか精進崩れくる佛事
の心得失せゆく昨今

瀬戸口芳子

世は変る自民党敗れたり長き世を

国民の苦しさ忘れしゆえか

橋口 貞男

年老いて友失ふとばかり一言黙し

て語らず畑に立ちて

祝迫 道雄

再会を約して帰路につく友を乗せ

たるバスは静かに離るる

杉村 リカ

三陸の夕陽たづねて孫とゆく太陽

は堂々と大海に還り

井上 澄子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

女房ん尻ゆ真つ先き捕った蠅取紙

南川 句句

紙の栓 残けた焼酎どま気が抜

けつ 森山 厚香

女房あ旅沢山つ飲んなち置た手紙

田代 勝泉

大隅薩摩狂句会

孫かいの手紙が一番の良か葉

福元 多喜子

両方共め涙で語い友人の見舞

太良木 五徳

兄弟喧嘩 涙で止めを兄が取つ

新屋 涼子



きんもくせい
(市役所横)